



「あったらいいな」をカタチに！！

有限会社バンショップ・ミカミ
代表取締役 見上 喜美男

10年ほど前に、ふと、大きなキャンピングカーをデフォルメしたような小さなオモチャみたいなキャンピングカーがあれば楽しそうだなあ？って想像したのが軽のキャンピングカーを作るきっかけでした。

でもキャンピングカーですから寝られなきゃいけないので、そんなスペースあるのかな？とすぐにメジャーを持って軽トラックの荷台を採寸したら、一般的に寝れる寸法の1800mmあり、なぜか凄く楽しくなってきたのを覚えています。

次は、作れるけど合法的に公道を走れるか調べました。保安基準では軽は高さ2mなのでイメージしたスタイルには全然足りません。でも荷物だったら道交法で2.5mまで大丈夫だとわかり、架装部分を荷物とすることにしました。でも解釈の違いがあるといけなかったので陸運事務所、警察署と図面を持って説明をし確認をとりました。この時に出来たのが荷台積載型の「やどかり」です。

九州キャンピングカーショーで初お披露目し、予想以上の反響にびっくりです。それもそのはず周りが500万円以上のキャンピングカーの中に、150万円～、車輛持込だと98万円の貼紙してたから一番現実味のあるブースだったと思います。

それから5年間大阪、東京を中心にイベント出展しましたが、なかなか多くの販売に結びつきません。でもどこのイベントでもすごい人気で人は集まります。それでお客様の声を聞くと「この屋根もう少し低く出来ないの?」「定員4人に出来ないの?」とよく言われました。

都市部では立体駐車場、地下駐車場が多いため屋根が高いと停められるところが少なく、また乗用車代わりに乗ろうと思うと最低4人定員は欲しいということでした。

それに、やどかりの場合、後部架装部分を外さないと車検が受からないのですが、購入された方の大半が年配の方で、外すのが面倒だと聞き、それならこの三点を満足すれば売れる車になるのではと思い「テントむし」を設計、デザインしました。キャンピングカーの色は白っていう観念を無くし小さいボデーでも存在感のあるデザインにしました。

また材質は、軽くないと走りの悪い車になるのでアルミを多用しました。それはFRPと違い平面パネルが綺麗に仕上がるということも考えてのことです。あと運転席後部パネルを切除して後部室内と繋ぐことで室内空間を広くしました。

その後部パネルを切除することで、車体強度が落ちます。その強度試験を工業技術センターへ依頼したところ、快く受けてもらえセンター裏広場で走行試験データ取り、満足する数値が得られ、検査協会の方へ試験成績書を提出できました。

今、それがブームになり、軽キャンピングカーという新しいジャンルを築けたことにとっても嬉しく思います。ただ現在、どんどん安全基準が厳しくなっており、工業技術センターに相談しながら安全な良い車創りをして鹿児島から発信していきたいと思っています。

